

く卒園児のお父さんよりく

巣立つ言葉

第一もず園保護者代表 久保田と申します。

本日はこのような心のこもった式を開いていただき誠にありがとうございました。

大きな期待と不安を抱きながらわが子を入園させて、六年が経ちました。0歳児から保育を通じて多くの課題に取り組んでまいりました。園長先生を始め先生方、職員の皆様とこの日を迎えられたこと、心から嬉しく思い同時に感謝の気持ちでいっぱいです。たとえお預け期間が短い方でも感謝の気持ちは同じでございます。

もず園生活、最後の運動会は保護者の皆さんも子どももの「力」に大きな期待をよせたことと思います。その思いを受けて子どもたちの持っている「力」を出すために保育の先生方、セラピストの先生方が子どもの気持ちを受け止め、認めて、褒めて、一つひとついいねいに積み重ねてくれました。子どもたちはオープンングリレー、クラスでの取り組みへと積み重ねた「力」を思う存分に出してくれました。中には泣いて上手く「力」を出し切れなかった子どももいました。先生はおっしゃってくれました。「結果はもちろん大事だけど、一番大事なことはそこへ向かうまでに子どもが何を感じ、どう取り組んできたか！プロセスが大事なんです!!」と 今、大きく成長した子どもの姿を見たとき、そこを信じて歩みを進めてきて良かったと感じています。

このもず園で子どもたちの笑顔と持っている大きな「力」と「可能性」を先生方と保護者の皆さんと一緒に考え喜び合えたことは、わたくしにとつて、大きな大きな宝物です。そのことを経験させてくれた子どもにも感謝をしています。

今、思うことがあります。
しょうがいがあってもなくても子どもはみんな宝物なんだ！とまた、一人ひとりがダイヤモンドなんです！皆さんご存知ですが、ダイヤモンドを磨くことができるのはダイヤモンドしかないんです。このもず園でたくさんの人に磨かれた子どもたちは、今光輝き始めました。四月から子どもたちの新しい生活が始まります。学校、また他の場所でもたくさんの人に磨かれて強く光輝いてくれることを信じ願っています。

平成二十七年三月二十三日